

II 定点把握対象疾患の発生動向

1 定点把握対象疾患の概要

1) 内科定点及び小児科定点（インフルエンザ/COVID-19 定点）の感染症

インフルエンザは2022-2023年シーズンの患者数がやや多い状態のまま2023-2024年シーズンに入り、2023年は年間を通して報告患者が多かった。2022-2023年シーズンは、2月下旬から3月中旬にかけて定点当たり報告数が10.00を超えた。2023-2024年シーズンは、9月中旬に定点当たり報告数10.00、10月下旬に定点当たり報告数30.00を超え、増減はあるものの、10月中旬以降12月まで定点当たり報告数が20.00を下回ることはなかった。

2) 小児科定点の感染症

RSウイルス感染症の流行のピークは、2017年以降では2020年を除き、7月から9月にかけて観察されている。2023年の流行は5月から始まり、ピークは6月で、8月まで続いた。咽頭結膜熱は、例年に比べ大規模な流行が秋冬にかけて観察された。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、2020年3月以降、例年を下回る水準で推移していたものの、2023年4月以降増加し、秋冬にかけて大規模な流行が観察された。感染性胃腸炎は例年に比べ、夏季にやや大きな流行が観察された。11月から12月の冬季流行は、2023年は小規模で、2019年及び2022年と同等であった。水痘は、2020年4月以降、例年を下回る水準で推移している。手足口病は、2011年以降、2013年、2015年、2017年、2019年と隔年で大きな流行が観察されていたが、2021年に流行は観察されなかった。2022年は2019年以来の流行が観察された。2023年は2016年及び2018年と同様に流行は小規模であった。伝染性紅斑は、2018年-2019年と続いた流行が2020年に終息し、以後非流行期が続いている。突発性発しんは、4月から5月は例年同様の動向が観察されたが、1月から3月及び6月以降は例年よりやや少ない水準で推移した。ヘルパンギーナの夏季流行は5月から始まり、ピークは7月で、9月まで続いた。流行は大規模であった。流行性耳下腺炎は、年間を通して際立った報告数の増加は観察されず、2018年以降非流行期が続いている。

3) 眼科定点の感染症

急性出血性結膜炎は、年間を通して断続的に報告されたが、低い水準が続いている。流行性角結膜炎は、9月以降増加し、多い状況が続いた。

4) 基幹定点の感染症

ア 週単位報告の感染症(2023年第1週～第52週)

細菌性髄膜炎の過去10年の定点当たり報告患者総数は0.22～1.40の範囲であった。2023年の定点当たり報告患者総数は0.98で、報告は例年同様に散発的であった。無菌性髄膜炎の定点当たり報告患者総数は3.48であった。過去10年の定点当たり報告患者総数2.00～5.70の範囲にあるが、2020年～2022年(2020年:2.00、2021年:2.45、2022年:2.00)より多かった。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告患者総数は1.70であった。過去10年の定点当たり報告患者総数0.73

～49.22 の範囲にあるが、2021 年以降は 2.00 未満が続いている。クラミジア肺炎は、2020 年以降は患者の報告がない。過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 0.00～4.33 の範囲であった。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、2013 年第 42 週から報告対象疾患となり、2014 年以降の定点当たり報告患者総数は 0.09～11.40 の範囲であった。2023 年の定点当たり報告患者総数は 0.54 で、2020 年以降、流行は観察されず、4 年間の定点当たり報告患者総数は 0.09～0.54 の範囲である。インフルエンザ(入院患者)の定点当たり報告患者総数は 34.11 であった。過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 0.09～52.64 で、2021 年(0.09)及び 2022 年(0.36)は低い水準であったが、2023 年は増加した。流行は内科・小児科定点報告のインフルエンザと同様の期間に観察された。

イ 月単位報告の感染症(2023 年 1 月～12 月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2013 年から 2020 年は 20.00 を下回っていた。2023 年の定点当たり報告患者総数は 16.28 で、2 年ぶりに定点当たり報告患者総数 20.00 を下回った。全国(32.36)と比較すると少なかった。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2005 年から 2011 年は 10.00 を超えていた。その後は低い水準で推移している。2023 年の定点当たり報告患者総数は 3.10 で、全国(2.11)より多かった。薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2007 年までは 1.00 以上であったが、2008 年から 2022 年までは 0.09～0.89 で推移している。2023 年の定点当たり報告患者総数は 0.18 で、全国(0.20)と同水準であった。

5) 性感染症定点の感染症

性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、2007 年までは 30.00 を上回っていたが、2008 年から 2022 年までは 24.12～28.72 で推移している。2023 年の定点当たり報告患者総数は 27.50 で、全国(31.78)より少なかった。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は、2004 年以降、5.82～9.50 で推移している。2023 年の定点当たり報告患者総数は 9.14 で、全国(9.62)より少なかった。尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は、2004 年以降、3.84～6.28 で推移している。2023 年の定点当たり報告患者総数は 4.79 で、全国(6.73)より少なかった。淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2004 年以降、6.26～13.36 で推移している。2023 年の定点当たり報告患者総数は 5.83 で、1999 年の感染症法施行以降、最少となった。また、全国(9.83)より少なかった。